

令和4年度 竹富町教育事務の点検・評価報告書 (令和3年度対象事業)



竹富町教育委員会

報 告 書

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条の規定に基づき、令和3年度における竹富町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価の結果を報告する。

令和4年11月

竹富町教育委員会

■地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

■竹富町教育委員会で扱う事務は、おおむね次のとおりである。

- 1 町立学校等の設置及び統廃合に関すること。
- 2 学級教材、教具の整備に関すること。
- 3 町立学校等の施設、設備及び管理、備品に関すること。
- 4 教育財産の管理及び財産台帳の整備保管に関すること。
- 5 教育委員会事務局及び教育委員会の所管する職員の任免その他、人事に関すること。
- 6 文化財に関すること。
- 7 町史編集に関すること。
- 8 学齢児童、生徒、園児の就学猶予並びに転退学、その他学籍に関すること。
- 9 教科書の採択、給与事務に関すること。
- 10 町立幼稚園に関すること。
- 11 学校給食に関すること。
- 12 社会教育に関すること。
- 13 生涯学習及びスポーツの振興に関すること。
- 14 青少年の健全育成に関すること。

目 次

はじめに	3
教育委員会委員名簿	3
外部評価委員(学識経験者)	3
教育主要施策体系	4
教育委員会の活動	5
(1) 教育委員会の概要	5
(2) 教育委員会の会議等の状況	5
(3) 教育委員の情報収集状況	9
(4) 教育委員会事務局の組織及び職員配置	9
(5) 教育費の状況	10
令和3年度 教育事務の点検評価	11
1 点検評価対象年度	11
2 点検評価内容	11
(1) 幼稚園、学校教育の充実	
(2) 社会教育・スポーツの充実	
(3) 伝統文化の保存と継承	
(4) 町史編集	
(5) 教育行政の充実	
3 点検評価の方法	12
教育事務事業点検評価	13
点検評価の結果一覧表	13
・事務事業点検評価シート	14
教育事務点検総合評価	37
教育委員会の機能充実	37
幼稚園・学校教育の充実	37
新型コロナウイルスの影響で実施出来なかった主な事業	38

はじめに

竹富町教育委員会では、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、本町の教育及び文化の振興に関する大綱を定め、①「自ら学ぶ意欲と豊かな心の育成」②「潤い生きがいのある生涯学習のまちづくり」③「子育て支援などの課題への対応」④「スポーツの振興」⑤「伝統文化の継承発展及び文化活動の支援」を教育目標に教育行政を推進しています。当該目標を推進する施策として、令和3年度に実施した各種事業の中から23事業を選定し、今年度の点検評価を行いました。

評価の方法は、各担当課が各事業の概要等を評価シートにまとめ、教育事務点検評価委員会にて内容等の点検及び内部評価を行い、その後、学識経験者で構成される外部評価委員会による各課ヒヤリングを実施し、事業ごとに外部評価を付していただきました。

評価された各事業については、概ね計画どおりに又はそれ以上に執行されているとの評価を受けましたが、同時に様々のご提言をいただいております。

これらの貴重なご意見を真摯に受け止め、今後の教育行政の推進に反映させるよう努めてまいります。

この報告書は、評価の結果と教育委員会の活動状況をまとめ、議会に提出するとともに、公表することで町民の皆様への説明責任を果たし、教育行政の質の向上を図ることを目的に作成したものです。

今後とも町民の皆様の教育行政へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

竹富町教育委員会教育長及び委員

職名	氏名	任期	備考
教育長	佐 事 安 弘	自 令 和 3 年 10 月 1 日 至 令 和 6 年 9 月 30 日	
委 員 (教育長職務代理)	島 村 賢 正	自 令 和 元 年 10 月 1 日 至 令 和 5 年 9 月 30 日	
委 員	上勢頭 輝	自 平 成 31 年 4 月 1 日 至 令 和 5 年 3 月 31 日	
委 員	川 満 晃 弘	自 令 和 4 年 10 月 1 日 至 令 和 8 年 9 月 30 日	
委 員	松 原 史	自 令 和 4 年 10 月 1 日 至 令 和 8 年 9 月 30 日	

竹富町教育事務点検評価外部評価委員

氏名	備考
浦 崎 喬	元校長
友 利 始 夫	元校長

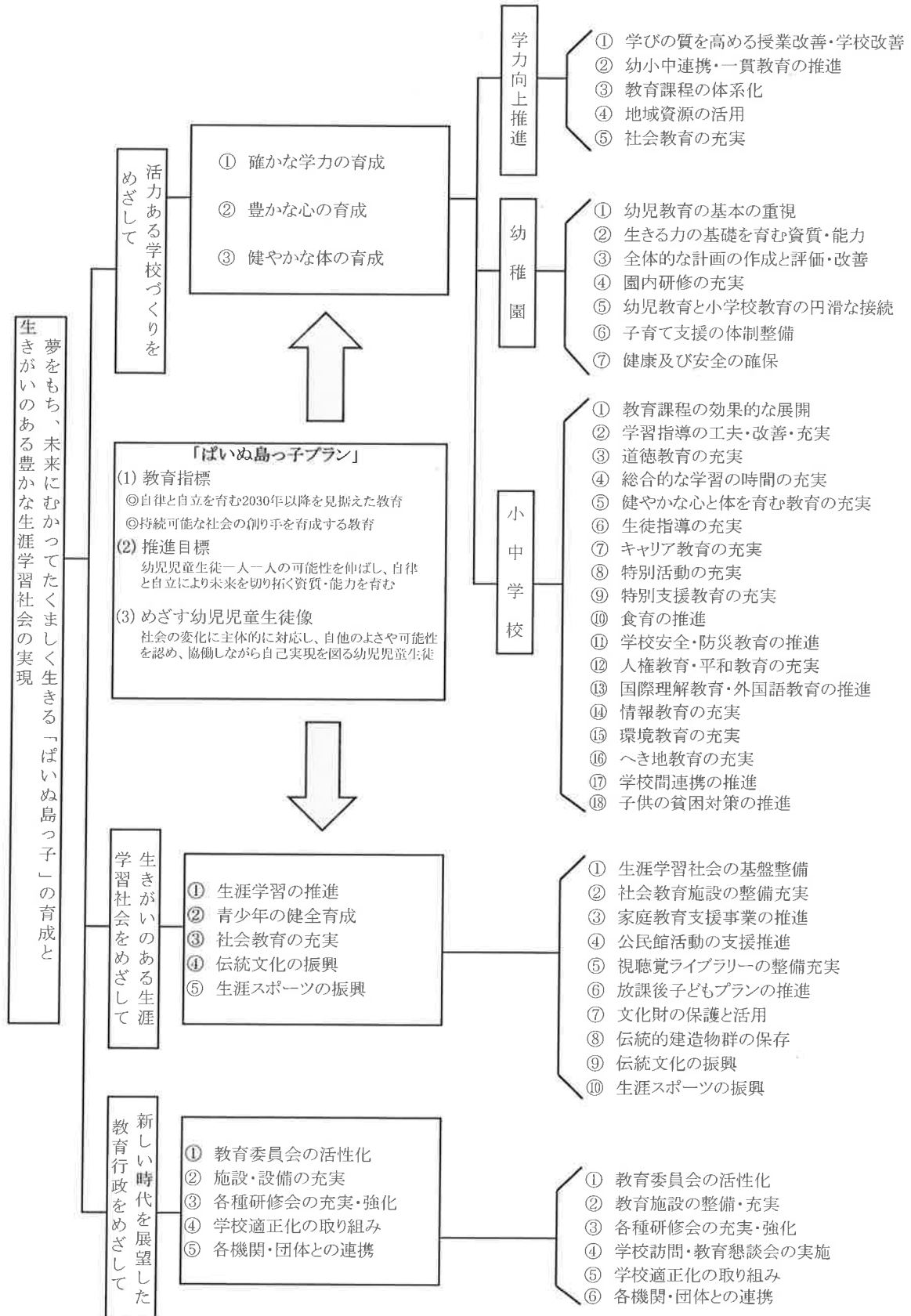
■教育主要施策体系

竹富町教育委員会

【目標】

【努力点】

【努力事項】



1 教育委員会の活動

(1) 教育委員会の概要

教育委員会制度の改革により、平成27年10月1日より教育委員長と教育長を一本化した「教育長」が設置され、教育長と委員(4名)で組織する合議制の実行機関であります。

また、総合教育会議は首長と教育委員会が教育施策について協議・調整の場です。これにより、首長が教育行政に果たす責任や役割が明確になり、首長と教育委員会が協議・調整することにより、これまで以上に両者の連携が図られ、教育施策の推進が可能になります。

教育長は、教育委員会の会務を総理し、教育委員会の代表(会議の主宰者、具体的な事務執行責任者、事務局の指揮監督者)となり、その任期は3年となっています。

(2) 教育委員会の会議等の状況

本町教育委員会においては、奇数月1回の定例会と随時開催の臨時会の開催と自主研修を実施し、事務局と連携しながら施策を推進してきました。

令和3年度も新型コロナウイルスの影響により各種行事が中止、縮小となりましたが、学校支援訪問等により教育行政の推進に努めてまいりました。

沖縄県市町村教育委員会連合会や八重山地区市町教育委員会協議会の総会・研修会等への参加については、オンライン会議等で参加するなど県内各地区の教育委員と意見交換を行い研修を実施してまいりました。

教育委員会定例会・臨時会においては、57件の報告・議案を審議いたしました。総合教育会議については、令和3年度は開催されていません。

令和3年度の会議開催、付議事件及び内容は次のとおりであります。

	開催数	付議件数
定例会	6回	56件
臨時会	1回	1件
計	7回	57件

■会議開催状況、付議内容

開催回数	開催日	番号	議 案 名	結果
第4回 (定例会)	令和3年 5月28日	報告第14号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について（許可16号）	承認
		報告第15号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について（許可1号）	承認
		報告第16号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について（許可2号）	承認
		報告第17号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について（許可3号）	承認
		報告第18号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第19号	竹富島歴史的景観保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第20号	竹富島歴史的景観保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第21号	臨時代理について（竹富町社会教育委員の委嘱）	承認
		報告第22号	臨時代理について（竹富町立学校医の委嘱）	承認
第5回 (定例会)	令和3年 7月30日	報告第23号	臨時代理について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について）	承認
		報告第24号	臨時代理について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について）	承認
		報告第25号	臨時代理について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について）	承認
		報告第26号	臨時代理について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について（許可4号））	承認
		報告第27号	臨時代理について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について（許可5号））	承認
		報告第28号	臨時代理について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について（許可6号））	承認
		報告第29号	臨時代理について（学校評議員の委嘱）	承認
		議案第3号	竹富町教育委員会の権限に関する事務の一部委任に関する規則の一部改正について	可決
		議案第4号	竹富町立学校教員宿舍管理規則の一部改正について	可決
		議案第5号	竹富町教育事務の点検評価外部委員の委嘱について	可決
		議案第6号	竹富町文化財保護審議会委員の委嘱について	可決
		議案第7号	令和3年度工事計画について	可決
第6回 (定例会)	令和3年 9月30日	報告第30号	臨時代理について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について（許可7号））	承認
		報告第31号	臨時代理について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について（許可8号））	承認
		報告第32号	臨時代理について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について（許可9号））	承認
		報告第33号	臨時代理について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について（許可10号））	承認

開催回数	開催日	番号	議 案 名	結果
		報告第34号	臨時代理について（竹富島歴史的景観保存地区における現状変更行為協議書の回答について）	承認
		報告第35号	臨時代理について（竹富島歴史的景観保存地区における現状変更行為協議書の回答について）	承認
		報告第36号	臨時代理について（令和3年度教育支援委員会の委嘱について）	承認
		報告第37号	臨時代理について（令和2年度教育支援委員の委嘱について）	承認
第7回 (定例会)	令和3年 11月25日	報告第38号	臨時代理の承認について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について（許可11号））	承認
		報告第39号	臨時代理の承認について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について（許可12号））	承認
		報告第40号	臨時代理の承認について（竹富島歴史的景観保存地区における現状変更行為協議書の回答について）	承認
		報告第41号	臨時代理の承認について（竹富島歴史的景観保存地区における現状変更行為協議書の回答について）	承認
		議案第8号	竹富町立学校管理規則の一部を改正する規則	可決
		議案第9号	竹富町立幼稚園管理規則の一部を改正する規則	可決
		議案第10号	竹富町史編集委員の委嘱について	可決
第1回 (定例会)	令和4年 1月28日	報告第1号	臨時代理の承認について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について（許可13号））	承認
		報告第2号	臨時代理の承認について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について（許可14号））	承認
		報告第3号	臨時代理の承認について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について（許可15号））	承認
		報告第4号	臨時代理の承認について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為協議の回答について）（防災備蓄庫）	承認
		報告第5号	臨時代理の承認について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為協議の回答について）（津波避難標識）	承認
		報告第6号	臨時代理の承認について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為協議の回答について）（港湾監視カメラ）	承認
		報告第7号	臨時代理の承認について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為協議の回答について）（街灯改修）	承認
		議案第1号	令和4年度竹富町一般会計予算（教育委員会関係）案について	可決
		議案第2号	竹富町学校設置条例の一部を改正する条例	可決
		議案第3号	鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例	可決
		議案第4号	重要文化財（建造物）旧与那国家住宅の指定申請書の提出について	可決
第2回 (臨時会)	令和4年 2月18日	議案第5号	令和4年度県費負担管理職人事異動発令について	可決
第3回 (定例会)	令和4年 3月28日	報告第8号	臨時代理の承認について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について（許可16号））	承認
		報告第9号	臨時代理の承認について（竹富島歴史的景観保存地区における現状変更行為の回答について）（楽天モバイル(株)）	承認
		報告第10号	臨時代理の承認について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為協議の回答について）（教育委員会）	承認

開催回数	開催日	番号	議 案 名	結果
		報告第11号	臨時代理の承認について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為協議の回答について）（まちづくり課）	承認
		報告第12号	臨時代理の承認について（3/7付人事異動内示）	承認
		報告第13号	臨時代理の承認について（3/25付人事異動内示）	承認
		議案第6号	竹富町学校医、歯科医、薬剤師の委嘱について	可決
		議案第7号	竹富町スポーツ推進委員の委嘱について	可決

(3) 教育委員の情報収集状況

教育委員会は、新型コロナウイルスの影響により、各種研修会等が中止されるなど制限を受けましたが、学校支援訪問、事務局からの教育行政情報収集、専門知識収集のためオンラインによる研修会等への参加、他市町村教育委員会の情報収集及び課題解決の方向性模索のため、教育委員会連合会及び教育長協会などへの参加を通して教育関連情報の収集に努めました。

	内 容	件 数
1	課題施設等の視察	0件
2	学校等支援訪問(施設)	小中学校8、幼稚園2
3	研修会等への参加	3回 (Web3)
4	学校等行事への参加	入学式、卒業式、運動会、 学習発表会、その他
5	会議等への参加(教育長)	40回 (県外1、市内26、町内2、Web6、書面5)
6	その他 (教育委員会月報、時報市町村教委)	

(4) 教育委員会事務局の組織及び職員配置(令和4年3月31日現在)

課名	職名	係名	人員
総務課	課長1 課長補佐1	総務係	2 (2)
		施設係	1 (1)
教育課	課長1 課長補佐1	教育係	3 (7)
社会文化課	課長1 課長補佐0	社会教育係	0 (1)
		社会体育係	1 (1)
		文化財係	3 (4)
		町史編集係	2 (1)
合計	5		12 (17)

()は再任用、会計年度、ALT等

(5) 教育費の状況

■教育費の推移

項目／年度	平成29年度	平成30年度	平成31(令和元)年度	令和2年度	令和3年度
教育費	1,438,787 千円	1,793,248 千円	1,431,315 千円	996,212 千円	959,069 千円
1人当たり教育費	326,848 円	425,041 円	337,734 円	236,069 円	230,490 円
各年度3月末人口	4,402 人	4,219 人	4,238 人	4,220 人	4,161 人

■令和3年度教育費の内訳

(歳入)

1	分担金及び負担金	88 千円
2	使用料及び手数料	5,456 千円
3	国庫支出金	14,184 千円
4	県支出金	118,108 千円
5	財産収入	65 千円
6	寄付金	0 千円
7	繰入金	0 千円
8	諸収入	33,715 千円
9	町債	79,000 千円

(歳出)

1	総務管理費	12,139 千円
2	沖縄振興特別推進交付金事業	30,568 千円
3	教育総務費	140,455 千円
4	小学校費	268,932 千円
5	中学校費	119,376 千円
6	幼稚園費	54,470 千円
7	社会教育費	235,556 千円
8	保健体育費	92,508 千円
9	文教施設災害復旧費	0 千円
10	基金費	5,065 千円

■令和3年度の主な事業(教育関連)

(1) 幼稚園・学校教育の充実

- 1 竹富町海洋教育推進事業
- 2 学力向上推進
- 3 竹富町内学校ICT支援員派遣事業
- 4 公立学校情報機器整備事業
- 5 鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営
- 6 幼稚園預かり保育事業
- 7 特別支援教育支援員配置事業

- 8 外国語指導助手(ALT)派遣事業
(外国青年招致事業含む)
- 9 町外等派遣費補助事業
(沖縄振興特別推進交付金)
- 10 離島高校生修学支援事業
(離島高校寮生修学援助奨励事業)
- 11 ふるさと応援奨学金
- 12 学校給食担当者研修会

(2) 社会教育・スポーツの充実

- 1 放課後子ども教室委託事業
- 2 生涯学習委託事業(社会教育学級)
- 3 社会教育団体体育成補助事業

(3) 伝統文化の保存と継承

- 1 文化財美化保全(沖縄振興特別推進交付金)
- 2 伝統的建造物群保存地区の景観保全
- 3 史跡等活用整備事業
- 4 重要文化財旧与那国家住宅附とら修理工事
- 5 竹富町文化振興・観光交流拠点整備事業
- 6 埋蔵文化財の保護

(4) 町史編集

- 1 町史編集事業

(5) 教育行政の充実

- 1 学校施設等の維持管理

令和3年度 教育事務の点検評価

1 点検評価対象年度

令和3年度

2 点検評価内容

点検評価内容については、教育事務点検評価委員会による内部評価及び学識経験者等による外部評価とし、「幼稚園・学校教育の充実」、「社会教育・スポーツの充実」、「伝統文化の保存と継承」、「教育行政の充実」について行った。

(1) 幼稚園・学校教育の充実

- 1 竹富町海洋教育推進事業
- 2 学力向上推進
- 3 竹富町内学校ICT支援員派遣事業
- 4 公立学校情報機器整備事業
- 5 鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営
- 6 幼稚園預かり保育事業
- 7 特別支援教育支援員配置事業
- 8 外国語指導助手(ALT)派遣事業(外国青年招致事業含む)
- 9 町外等派遣費補助事業(沖縄振興特別推進交付金)
- 10 離島高校生修学支援事業(離島高校生修学援助奨励事業)
- 11 ふるさと応援奨学金
- 12 学校給食担当者研修会

(2) 社会教育・スポーツの充実

- 1 放課後子ども教室委託事業
- 2 生涯学習委託事業(社会教育学級)
- 3 社会教育団体育成補助事業

(3) 伝統文化の保存と継承

- 1 文化財美化保全(沖縄振興特別推進交付金)
- 2 伝統的建造物群保存地区の景観保全
- 3 史跡等活用整備事業
- 4 重要文化財旧与那国家住宅附と一ら修理工事
- 5 竹富町文化振興・観光交流拠点整備事業
- 6 埋蔵文化財の保護

(4) 町史編集

- 1 町史編集事業

(5) 教育行政の充実

- 1 学校施設等の維持管理

(6) 教育事務点検総合評価

- ・ 教育委員会の機能充実
- ・ 幼稚園・学校教育の充実

(7) 新型コロナウイルスの影響で実施出来なかった主な事業

- | | |
|-------------|---------------|
| 1 ホームステイ事業 | 5 やまねこマラソン大会 |
| 2 英語サマースクール | 6 国土交通大臣杯 |
| 3 小学校集団宿泊学習 | 全国離島交流中学生野球大会 |
| 4 球技大会 | |

3 点検評価の方法

評価については、事業種目ごとに点検評価シートを作成し、評価基準を設定して、複眼的視点による評価を試みた。評価における評価基準及び総合評価基準については次のとおりとする。

(1) 評価基準

点数	妥当性	効率性	有効性	今後の展開
4	教育委員会が関与する妥当性が非常に高い。	投入コストに比べ活動量が非常に高い。	成果が非常に高い。	事業規模拡大が望まれる。
3	教育委員会が関与する妥当性が高い。	投入コストに比べ活動量が高い。	成果が高い。	事業規模の維持が望まれる。
2	教育委員会が関与する妥当性が低い。	投入コストに比べ活動量が低い。	成果が低い。	事業規模の縮小が望まれる。
1	教育委員会が関与する妥当性が非常に低い。	投入コストに比べ活動量が非常に低い。	成果が非常に低い。	廃止又は休止が望まれる。

(2) 点 数

評価	妥当性・効率性・有効性・今後の展開の合計点
A	14点 ～ 16点
B	11点 ～ 13点
C	8点 ～ 10点
D	4点 ～ 7点

教育事務事業点検評価

令和3年度教育事務点検評価の結果一覧表

主要施策	事業名	担当課	内部評価	外部評価	ページ
幼稚園・学校教育の充実	1 竹富町海洋教育推進事業	教育課	A	A	14
	2 学力向上推進	〃	A	A	15
	3 竹富町内学校ICT支援員派遣事業	〃	A	A	16
	4 公立学校情報機器整備事業	〃	A	A	17
	5 鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営	〃	A	A	18
	6 幼稚園預かり保育事業	〃	A	A	19
	7 特別支援教育支援員配置事業	〃	A	A	20
	8 外国語指導助手(ALT)派遣事業(外国青年招致事業含む)	〃	A	A	21
	9 町外等派遣費補助事業(沖縄振興特別推進交付金)	総務課	A	A	22
	10 離島高校生修学支援事業(離島高校寮生修学援助奨励事業)	〃	A	A	23
	11 ふるさと応援奨学金	〃	A	A	24
	12 学校給食担当者研修会	〃	A	A	25
社会教育・スポーツの充実	1 放課後子ども教室委託事業	社文課	A	A	26
	2 生涯学習委託事業(社会教育学級)	〃	A	A	27
	3 社会教育団体育成補助事業	〃	A	A	28
伝統文化の保存と継承	1 文化財美化保全事業(沖縄振興特別推進交付金)	〃	A	A	29
	2 伝統的建造物群保存地区の景観保全	〃	A	A	30
	3 史跡等活用整備事業	〃	A	A	31
	4 重要文化財旧与那国家住宅附と一ら修理工事	〃	A	A	32
	5 竹富町文化振興・観光交流拠点整備事業	〃	A	B	33
	6 埋蔵文化財の保護	〃	A	A	34
町史編集	1 町史編集事業	〃	A	A	35
教育行政の充実	1 学校等施設の維持管理	総務課	A	A	36
教育事務点検総合評価	・ 教育委員会の機能充実	-	-	-	37
	・ 幼稚園・学校教育の充実	-	-	-	37

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	竹富町海洋教育推進事業	担当課	教育課
事業費	R2年度実績額	R3年度実績額	R4年度予算額
	15,380 千円	12,869 千円	1,508 千円
事業概要	島嶼型海洋自治体である本町の児童生徒が、海洋についての理解と関心を深め、将来にわたり海洋の恵沢を享受できるよう海洋教育を推進する。		
(1) 対 象	竹富町内小中学校		
(2) 目 的	海洋教育を通して竹富町への理解を深め、誇りと郷土愛を育み、竹富町としての一体感を醸成するとともに、海と共生できる本町の地域づくりや持続可能な社会づくりに貢献できる人材を育成する。		
(3) 事業内容	令和元年度から令和3年度までの3年計画であり、竹富町海洋教育サミットの開催、各校へ海洋教育推進事業補助金の交付等を行い、海洋教育を推進する。		
(4) 成果目標	令和3年度の成果目標 ①竹富町海洋教育サミットの開催 ②各校へ竹富町海洋教育推進事業補助金の交付		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 町内13校全体で海洋教育に取り組むことができた。また、補助金を町内全校へ交付することもできた。町内全学校共通の取り組みとして、昨年度刊行した副読本の活用や、ビーチクリーンの実施等、竹富町としての一体感を醸成するための取り組みを実施することができた。 また、竹富町として初の海洋教育サミットを開催し、町内での海洋教育の取組の発信や共有を行うとともに、県内で海洋教育に取り組む糸満市より中学校1校を招聘し、他地域での取り組みの発表や交流を行うことができた。		
	【課題等】 本事業は、海洋教育パイオニアスクールプログラムの助成を受けて、事業を実施しているが、助成期間は令和3年度で終了となるため、今後、本事業を継続するなかで、学校や地域との連携を密にすることや、町内の海洋教育に関する様々な取り組みを町内外にも広く伝わるよう周知・広報できるようにするなど、予算が少ない中で実施できるよう取り組む必要がある。		
外部評価	令和2年度に作成された「竹富町海洋教育副読本」により町内の全小・中学校で竹富町が期待する海洋教育が共通実践され、3年次の各地域・各学校の特性を生かした取り組みは発展・充実期を迎えている。海を通じて地球について考え、行動する資質・能力が醸成され持続可能な開発目標(SDGs)の実現に向けた学びに繋がることが期待される		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	学力向上推進	担当課	教育課
事業費	R2年度実績額	R3年度実績額	R4年度予算額
	917 千円	977 千円	1,504 千円
事業概要	町内を9つの地区に分け、各公民館長を委員長とした地区学力向上推進委員会を設置し、学校・家庭・地域・行政が連携して、子ども達の「生きる力」を育み、将来に夢を持ち目標を立て努力し、社会の創り手となる人材育成を推進する。		
(1)対象	幼児・児童・生徒、教職員、PTA、地域		
(2)目的	学校、家庭、地域、行政が一体となって、幼児・児童・生徒一人ひとりに「生きる力」につながる「確かな学力」の向上を図る取組みを推進する。		
(3)事業内容	1.町学力向上推進委員会及び実践報告会(誌面開催) 2.各地区学力向上推進委員会総会及び実践報告会 3.教育講演会(感染拡大防止の観点から中止) 4.標準学力検査、中3実力テスト実施 5.学校支援訪問等での指導助言		
(4)成果目標	① 竹富町学力向上推進要項に基づき、「令和3年度版ばいぬ島っ子プラン」を推進し、9つの各推進委員会の取組充実を図る。 ② 全国学力・学習状況調査、県学力到達度調査等で全国平均・県平均正答率を上回る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 9つの各地区においては、コロナ禍でも感染対策を講じながら地域の物的資源・人的資源を結びつけた地域総ぐるみの学力向上が推進された。 ② 学校支援訪問等において、授業についての指導助言を行うことで、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を図ることができた。 ③ 中3学力調査及び県学力到達度調査において、小学校・中学校ともにほとんどの学年・教科で県平均正答率を上回った。 ④ 町内の中学3年生全員が高校に進学できた。		
	【課題等】 ① 新学習指導要領全面実施に向けた教育課程編成の工夫改善 ② 地域に開かれた教育課程(多様な人々とのつながりや地域・社会と結びついた授業づくりの見直し。主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業実践の推進 ③ 自律・自立教育(自分で考え、自分で判断し、自分で行動することができる)の徹底 ④ コロナ禍における諸活動の工夫・実践		
外部評価	竹富町のめざす「社会の変化に主体的に対応し、自他のよさや可能性を認め協働しながら自己実現を図る幼児児童生徒」の育成には、「学力向上」、「幼小中連携の教育課程」、「地域との連携、地域に開かれた教育」が不可欠であり、全校で実施されている海洋教育をはじめ、伝統文化の継承、自然体験、社会体験が各学校で推進されており、学力向上の根幹をなす生きる力の育成が充実している。各種検査等の結果がそれらを証明している。		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	竹富町内学校ICT支援員派遣事業	担当課	教育課
事業費	R2年度実績額	R3年度実績額	R4年度予算額
	7,978 千円	7,729 千円	9,705 千円
事業概要	学校現場において、教育ICT機器の効果的な授業活用や日常的に発生する機器の不具合等の問題に迅速に対応することが望まれており、十分な知識と対応力をもつICT支援員を町内の各小中学校へ派遣する。		
(1) 対 象	竹富町内小中学校		
(2) 目 的	児童生徒の学習意欲等の向上を目指し、教育用PC・電子黒板・タブレット等のICT機器を効果的に活用した分かりやすい授業を実現するため、竹富町内の各小中学校へICT支援員を派遣する。		
(3) 事業内容	各小中学校へICT支援員を派遣し、以下の業務を行う。 ①ICT機器のメンテナンスや、管理・運用に関する助言 ②ICT機器に関する教員向けの研修会の実施 ③ICT機器の活用実績の集計、分析及び教育委員会への定期的な報告等		
(4) 成果目標	①各校へ月に1回以上のICT支援員派遣 ②各校における教育ICT機器の適切な管理・運用 ③情報モラルの指導・助言		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 令和3年度は、ICT支援員が2名体制でスタートし、学校への派遣回数も多く、各校へのICT支援をすることができ、当初の目標が達成された。		
	【課題等】 令和4年からは、1名欠員が生じるため、早急にICT支援員を採用し、2名体制で学校ICT支援業務ができるように取り組む。		
A			
外部評価	コロナ禍においてGIGAスクール構想が前倒しで実施され、令和2年度に全児童生徒一人に一台の端末が整備された。それに伴い、各学校におけるICT環境の整備充実は重要度を増してきており、日々変化する機器への対応や教職員の情報教育リテラシーの資質向上は不可欠なものとなっている。ICT支援員の各学校への派遣事業は、授業等における端末の活用方法をはじめ、授業中における操作補助や校内研修会(特に、遠隔授業やweb会議等)への支援などにより所期の目的を達成していると捉えている。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	公立学校情報機器整備事業		担当課	教育課
事業費	R2年度実績額	R3年度実績額		R4年度予算額
	23,077 千円	24 千円		3,117 千円
事業概要	GIGAスクール構想の実現に向けて、令和2年度に町内の各小中学校へ1人1台端末等の情報機器整備を実施したが、町内各小中学校へ遠隔教育等に対応する情報機器を整備する。			
(1) 対 象	竹富町内各小中学校			
(2) 目 的	多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人ひとりに公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現を目指す国の施策「GIGAスクール構想」の実現に向け、町内の各小中学校へ1人1台端末等の情報機器を整備する。			
(3) 事業内容	・児童生徒1人1台端末の整備 ・家庭学習のための通信機器の整備			
(4) 成果目標	・端末の各小中学校での授業での活用及び持ち帰り ・家庭学習のための通信機器の活用			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 令和3年度は、町内の各小中学校の授業でも端末を活用できるよ情報担当教員へGIGAスクール端末操作研修会を実施し、効果的に活用できるように取り組むことができた。また、新型コロナウイルス感染症の影響による休校、非常時にも諸条件はあるが端末持ち帰りも実施し、児童生徒の学びをある程度保障することができた。			
	【課題等】 休校等によるオンライン学習に備えて整備したモバイルWi-Fiについては、通信費の確保や家庭への貸出に関する仕組みづくりを行い、感染症等の理由による休校期間中においても、ICT機器を活用した遠隔学習が行える環境を整える必要がある。			
外部評価	令和2年度に小学校、令和3年度に中学校が完全実施に入っている新学習指導要領にプログラミング的思考の育成が明示された。同時に、ICTを活用した学習推進のためのICT機器環境の整備充実が進められ、令和2年度に児童生徒一人に一台の端末が整備された。それにより、令和3年度はプログラミング教育やGIGAスクール構想への対応、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた各教科等の指導におけるICT活用の促進、校務のICT化による教職員の業務負担軽減および教育の質の向上が図られている。			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営		担当課	教育課
事業費	R2年度実績額	R3年度実績額	R4年度予算額	
	10,536 千円	14,749 千円	17,151 千円	
事業概要	鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮の運営を行う。			
(1) 対 象	鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮へ入寮する児童生徒(小4～中3)			
(2) 目 的	学校の存続が危ぶまれる鳩間島において、留学を支援する鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮を運営し、留学生を受け入れることで安定的に児童生徒を確保すると共に、地域の活性化を図る。			
(3) 事業内容	①寮監の雇用(地域おこし協力隊) ②留学生の受入(定員8名) ③寮監や留学生による地域活性化(地域行事等への積極的な参加)			
(4) 成果目標	留学生の受け入れ(定員8名)			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 入寮式当初においては、7名を受け入れることができた。年度途中で1名退寮もあり、最終的には2名の卒寮となった。令和4年度は、継続入寮が4名、新規入寮が4名あり、合計8名で入寮を迎える。 寮監については、今年度は集落支援員、地域おこし協力隊の制度活用により3名体制で運営することができた。			
	【課題等】 令和3年度も新型コロナウイルスの影響もあり、地域行事の中止や帰省後の自宅待機等、地域との交流の場を作ることが困難であったので、令和4年度は地域との交流の場を多く作る必要がある。			
A				
外部評価	鳩間島の課題となっていた学校存続に関わる児童生徒の安定確保の受け入れ態勢は、つばさ寮の開設によって課題が解消され学校教育の充実と同時に島の活性化に繋がっていることは大きな成果である。特に、豊かな自然と歴史の中で育まれていく児童生徒の健やかな成長は特筆される。コロナ禍で様々な制限があるが、令和4年度に新たに新規入寮者4人が予定されていることは、これまでの寮運営の成果と捉えている。			
A				

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	幼稚園預かり保育事業	担当課	教育課
事業費	R2年度実績額	R3年度実績額	R4年度予算額
	9,584 千円	9,947 千円	7,020 千円
事業概要	幼稚園教育時間終了後、幼稚園管理下において希望する在園児を預かり保育することにより、幼児の心身の健全な発達を図るとともに保護者の子育て支援を図る。		
(1)対象	幼稚園教育時間終了後、家庭内保育が困難な幼児(4歳、5歳)		
(2)目的	幼児の心身の健全な発達及び保護者の子育て支援		
(3)事業内容	幼稚園教育時間終了後から午後5時までとし、また、夏季休業時は、午前8時30分から午後5時までの預かりを実施。		
(4)成果目標	保護者のニーズにあった保育を推進する。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 令和3年度に次年度の勤務時間変更等の改善策を示したことにより、離職者が減となり継続希望者が増となった。(6時間勤務から会計年度フルタイム変更) ② 保育料無償化により無料で利用できるようになったことで、保護者の負担が減った。 【課題等】 ① 竹富町では保育サービスが充実しておらず、週2,3日の数時間勤務でも特殊事情で受け入れを行っている。それに加え保育料無償化で、その希望も増え始めている。 ② 離職時の人材確保が難しい。		
A			
外部評価	離島で形成される竹富町において、各島々の預かり保育に関わる職員確保には課題が山積しているが、勤務態勢の見直しで改善が図られていることは評価できる。しかし、島内の限られた人材では、慢性的な保育人材不足に陥いることは予想されることであり、町長部局の福祉支援課との連携により地域保育の充実が求められる。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	特別支援教育支援員配置事業	担当課	教育課
事業費	R2年度実績額	R3年度実績額	R4年度予算額
	11,963 千円	14,098 千円	32,091 千円
事業概要	町内幼稚園・小学校・中学校に特別な支援を必要とする園児・児童・生徒に係る支援員を配置する。		
(1)対象	支援員の支援を要する町内の園児・児童・生徒		
(2)目的	発達障害等により学習や生活面に特別な支援を必要とする園児・児童・生徒に対して特別支援教育支援員を配置し、児童生徒に応じた適切な支援を行う。		
(3)事業内容	①各園、小中学校からの支援員要請を受け、概ね1日6時間、週30時間の間で、学校長の指導の下、担当教員と協力し、対象園児児童生徒に学習支援を中心に学校生活上の介助等、適宜に支援を行う。		
(4)成果目標	当該幼児児童生徒の実態や教員のニーズに応じた配慮、支援の工夫等による学ぶ意欲や社会性の向上。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明 【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 支援員の配置により、支援が必要な園児・児童・生徒の適切な支援が行われ、落ち着いて学習に向かうことにつながっている。また、支援員配置により、担任の負担が軽減され、安定した学級経営が図られた。 ② 幼稚園・小中学校における特別支援教育に関する教職員の意識の向上にも繋がり、子ども一人一人の教育的ニーズにあった適切な教育的支援を行うインクルーシブ教育の理解と実践に繋がっている。 ③ 町独自で琉大教授を講師に、支援員研修会を開催することで支援員の質の向上が図られた。		
	A	【課題等】 ① 例年、特別支援教育支援員の人材の確保が難しく予算を確保しても支援員配置ができない学校がある。	
外部評価	特別支援学級や通級の児童生徒が年々増加していること、通常の学級に在籍する発達障害のある児童生徒への教育的対応がますます求められていること、児童生徒の障害の状態が多様化していて、教師のマンパワーだけでは十分な支援ができないこと等から特別支援教育支援員のサポートが求められている。しかし、ここでも支援員の人材確保は島嶼で構成された自治体の最重要課題であり町長部局との連携が求められる。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	外国語指導助手(ALT)派遣事業 (外国青年招致事業含む)		担当課	教育課
事業費	R2年度実績額	R3年度実績額	R4年度予算額	
	13,217 千円	13,887 千円	14,999 千円	
事業概要	町内幼・小・中学校にALTを派遣することにより、生きた外国語や外国文化・生活に触れる機会を提供し、外国語によるコミュニケーション能力の向上と国際感覚の養成を図ることを推進する。			
(1) 対 象	竹富町内の幼稚園、小学校、中学校の幼児、児童、生徒			
(2) 目 的	中学校の英語教育と国際理解教育の充実・推進を図るとともに、小学校での英語活動、国際理解教育の充実に資する。			
(3) 事業内容	1. 中学校における英語科授業の補助 2. 小学校及び幼稚園における外国語活動等の補助 3. 英語教材作成の補助及び英語能力関係事業などへの協力 4. 幼・小・中学校への特別活動及び課外活動への協力			
(4) 成果目標	①町内の幼・小・中学校にALTを派遣し、幼児児童生徒に生きた外国語や外国文化・生活に触れる機会を提供する。 ②幼児児童生徒の外国語(英語)への興味・関心の向上を図る。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 ①各小・中学校へ年間24回、幼稚園へ年間10回ずつALTを派遣できた(船便の欠航等により派遣できない場合は、オンラインを活用した)。 ②児童生徒へのアンケートの結果から「外国語での会話や活動に楽しんで取り組んでいる。」の問いに対し、約8割の児童生徒が「あてはまる」と回答し、「どちらかと言えばあてはまる」と回答した児童生徒の割合は10%以上であった。このことから、ALTの派遣により児童生徒の外国語(英語)への興味・関心が高まっていると捉えることができる。			
	A	【課題等】 児童生徒の外国語(英語)への興味・関心を更に高めるため、安定した授業の実施が重要となるため、新型コロナ等で派遣できない場合はオンラインの活用を促進する必要がある。		
外部評価	小学校・中学校ともに、ネイティブな英語に触れる機会があることで児童生徒の学習意欲が高まっている。また、小学校で令和2年度から始まった外国語科の指導についても、教師の授業力・英語力の向上が図られたものと推測する。新型コロナウイルス感染症対策や気象状況の影響によりALTの学校への派遣が滞ってしまう場合には、ICTを活用した個別最適な外国語学習のさらなる充実が望まれる。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	町外等派遣費補助事業 (沖縄振興特別推進交付金)	担当課	総務課
事業費	R2年度実績額	R3年度実績額	R4年度予算額
	2,745 千円	6,769 千円	7,000 千円
事業概要	竹富町の児童生徒の大会等への参加に係る派遣費について、交付要綱にもとづき補助金として交付する。		
(1) 対 象	竹富町立小中学校に在籍する児童生徒		
(2) 目 的	児童生徒のスポーツ等の各種大会等への派遣費を補助し、保護者の負担軽減や各種大会等での貴重な体験経験を活かした人材育成に寄与し、沖縄本島等と離島の格差是正を図る。		
(3) 事業内容	竹富町立小中学校の児童生徒の大会等への派遣にかかる経費のうち、船賃(実費)・宿泊費(上限あり)・航空賃(上限あり)を要綱にもとづき補助金として交付する。		
(4) 成果目標	町外等派遣に係る保護者負担を軽減するとともに、大会等参加により他島の児童生徒との交流や島内よりも高いレベルの競技者との試合等町内ではできない経験をするすることで、子どもたちの心と体の健やかな育成を促す。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 本事業については、継続的に実施することにより学校・団体・個人にも周知され、多数の児童生徒に活用されている。大会での勝利や八重山代表選抜等、子どもたちの活躍も見られる。また、交付要綱の改定により、従来から要望のあった「八重山代表選抜選手のチーム合同練習参加」について対象経費とすることができた。学校や保護者への成果指標アンケートでは、95%以上が「町内ではできない経験をする事ができ」また「それによって刺激を受け、成長することができた」との回答が得られている。		
	A	【課題等】 ①代表選抜や、地区大会での成績、天候その他による延期や中止等、予測が付きにくい要素も多くあるので、財源となる沖縄振興特別交付金担当者と連携し、現状に合わせて柔軟な予算の増減や配分が必要とされる。 ②コロナウイルス感染拡大影響により中止となる大会もあったが、実績は前年度より大幅に増額した。令和4年度も同等か、さらに多くの事業費が見込まれる。	
外部評価	小規模校のために他校との合同チームを結成せざるを得ない状況下であり、その際の合同練習に係る派遣補助が対象経費として計上されたことは児童生徒が諸活動を行ったり、夢を抱く際の保障につながり自己実現が大いに期待できる。離島校や小規模校の学校教育におけるスポーツの振興及び文化・芸術活動の充実は大きな成果である。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	離島高校生修学支援事業 (離島高校寮生修学援助奨励事業)		担当課	総務課
事業費	R2年度実績額		R3年度実績額	
	(修学支援)	13,767 千円	(修学支援)	14,717 千円
	(寮生)	6,558 千円	(寮生)	6,196 千円
	(合計)	20,325 千円	(合計)	20,913 千円
		R4年度予算額		(修学支援) 16,170 千円
				(寮生) 7,590 千円
				(合計) 23,760 千円
事業概要	高等学校教育の円滑な修学にあたり、通学に要する交通費、及び居住費を助成する。			
(1) 対 象	保護者が本町に住所を有し且つ在住しており、その対象となる生徒が町立中学校を卒業し高等学校に修学している者			
(2) 目 的	保護者の経済的負担の軽減、教育の機会均等により地域社会に有為な人材を図るため、通学費等の一部を補助金として交付する。			
(3) 事業内容	○修学支援： 通学に要する経費、及び居住費(アパート、下宿、寮費等) 上限額24万円を補助。(補助対象事業： 国庫1/2、県費1/4、町1/4(起債)) ○寮費： 修学支援費の上限24万円に満たない差額分を、補助金として交付する。			
(4) 成果目標	高校未設置離島における保護者の経済的負担を軽減し、教育の機会均等と地域社会に有為な人材を育成を図る。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 年間3回の申請時期を設け、生徒1人あたり24万円(上限)を補助することで、高校未設置離島における保護者の経済的負担を軽減し、教育の機会均等が図られた。また、寮費のうち食費が対象外経費のため、離島高校生修学支援補助金の上限額に満たない差額分について、離島高校寮生修学援助奨励金交付事業で補助金として交付することで、寮生の修学を援助し奨励した。			
	【課題等】 町内(島内)に高校が未設置であり、石垣市内の県立3高校に設置のある学科や部活動が限られていることから、年々八重山郡外への進学も増えている。多くの高校生が寮やアパート・下宿での生活を余儀なくされるため、保護者負担を軽減し、竹富町の子どもたちに進路選択の自由と十分な学びの機会を確保する必要がある。			
外部評価	親元を離れての生活には多くの必要経費が伴うが、現在の生徒一人あたりの補助費は24万円(月額2万円)で、居住費や交通費等に係る保護者の経済的負担の軽減に大いに寄与している。さらに、上限額に満たない差額分を食費に計上し交付することで寮生の修学援助に寄与したことは令和3年度の成果として評価できる。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	ふるさと応援奨学金	担当課	総務課
事業費	R2年度実績額	R3年度実績額	R4年度予算額
	3,000 千円	4,800 千円	5,400 千円
事業概要	将来、大学等を卒業したのち竹富町内及び竹富町役場において、専門的資格を必要とする職業(専門職員)を目指す者の修学に必要な資金を支給する。		
(1) 対 象	竹富町に1年以上住所を有する者の子、または扶養にある者		
(2) 目 的	将来、大学等を卒業したのち竹富町内及び竹富町役場において、専門的資格を必要とする職業(専門職員)を目指す者の修学に必要な資金を支給する。		
(3) 事業内容	奨学金を給付する期間は、正規の終業期間とし、月額50,000円とする。就職する期間については、最低、正規の修業期間の2倍の期間とする。		
(4) 成果目標	専門的資格を必要とする職業(専門職員)を目指す者の修学に必要な資金を支給することで、その人材育成を図る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 R3年度8名の対象者へ支給を実施した。 (対象者進学地：沖縄本島1名、県外7名) 継続的な実施により事業が周知され、R4年度募集には7名の応募者があり、選考委員会により3名を奨学生として決定した。		
	【課題等】 引き続き制度の周知に努め、必要とされる学生に支給することで、本人及び保護者の経済的負担を軽減し、竹富町の将来を担う人材育成に寄与していきたい。		
A			
外部評価	離島の人材流出や住宅確保の困難さ等の課題から専門職(幼稚園教諭、保育士、管理栄養士等)の確保と定着を図ることが急務とされているため、本事業の成果に期待している。「周知不足は否めない」とのことであるから、全町民への費用対効果等(卒業後の町内就職や人材育成)の公表も必要と思われる。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	学校給食担当者研修会		担当課	総務課
事業費	R2年度実績額	R3年度実績額	R4年度予算額	
	0 千円	67 千円	339 千円	
事業概要	食事は健康の保持・増進、疾病予防の基本であり、食事づくりに携わる者の役割は大きい。衛生管理対策の徹底等、調理員の業務の再認識及び再確認をし、より良い給食業務の推進を図る。			
(1) 対 象	町内学校給食調理従事者等			
(2) 目 的	給食業務に携わる職員等を対象に衛生管理について研修会を行い、調理員間の交流及び情報共有を図る。			
(3) 事業内容	学校の夏期休業期間を利用し、沖縄県環境科学センターより講師を招き、衛生管理等についての研修会を行う。			
(4) 成果目標	調理施設における衛生管理・食中毒対策について、研修会を通して再確認、再認識をし、安心安全な給食の提供を図る。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 毎年、給食提供のない期間を利用し、「衛生管理について」の研修会を開催している。本町では単独調理場、共同調理場が数箇所あり、各調理員等の交流を行うことが難しいため、年に1度の研修会時に職員同士の親睦を深め課題や問題について相談しやすい体制づくりをおこなっているが、コロナ感染症の影響を考慮し、人数制限(各施設から代表者が参加)をし開催した。今回は、初の試みとして調理業務で実際に使用している温度計を持参してもらい、校正(検証作業)をおこなった。			
	【課題等】 研修の場、情報共有の場を増やす必要があると考えるが、給食担当者(調理員)の業務のない日で開催調整をしないとイケないため、長期間給食提供のない夏休み以外での開催は厳しいのが課題である。一堂に会しての研修会が実施できない場合の代替案を検討している。			
外部評価	学校給食は、健康教育の一環として学校教育目標に位置付けられるものであり、その運営管理に当たっては、関係者がそれぞれの責務をよく理解し、関係法令や通知等をもとに、学校や調理場及び地域の実情に応じて学校給食の目標を達成していかなければならない。離島における単独調理校という現状下での本事業の果たす役割は非常に大きいものと評価する。テレワークが進む中、これまでの「集合研修」も、知識の習得だけでなく、「いつでもどこでも知識を共有する」取り組みを取り入れたオンライン研修等にシフトチェンジする必要があるだろう。「短時間」で「相互共有」がこれからの職員研修に求められている。DX化による研修体制の見直しも必要だろう。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	放課後子ども教室委託事業		担当課	社会文化課
事業費	令和2年度実績額	令和3年度実績額	令和4年度予算額	
	886 千円	663 千円	1,150 千円	
事業概要	放課後等に学校の施設(余裕教室・体育館等)を利用して、子どもたちが安全かつ安心して活動できる拠点を設け、地域住民の参画を得て、学習活動や様々な体験・交流活動を通して地域社会の中で、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。			
(1)対象	教室を委託設置した校区内の小中学生を対象			
(2)目的	放課後の子どもたちの、安全で健やかな活動場所の確保を図る。			
(3)事業内容	【令和3年度実施団体名】 ①黒島小中学校(黒潮っ子放課後子ども教室) ②古見小学校(古見っ子放課後子ども教室) ③竹富小中学校(こぼし放課後子ども教室) ④小浜小中学校(まいふなっ子放課後子ども教室) ⑤上原小学校2件(上原ストームズ、上原ドリームこども放課後教室) ⑥住吉公民館育成会(住吉公民館育成会こども放課後教室 ※国庫補助=7教室)			
(4)成果目標	・地域の方々の協力を得て、学習活動、文化、スポーツ活動に取り組むことにより、子どもたちが健やかに育まれる環境づくりを推進する。 ・学校・家庭・地域による共同の取組により、「地域の子どもは地域で育てる」との環境及び意識の向上を図る。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価			
区分	評価の説明 【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 学校と地域が協力し、放課後の子どもたちの安心安全な居場所を確保するとともに、スポーツ、伝統芸能の習得、教科の予習復習等、有意義な各種活動を行えた。地域住民の方々がボランティアや各種活動の講師として参加することにより、地域との連携及びコミュニケーションが図られている。 令和3年度は、4校(黒島小中学校・古見小学校・竹富小中学校・小浜小中学校)で実施し、それぞれの教室で子どもたちの知識や技能の向上が図られた。			
	A	【課題等】 ①ボランティアで運営協力していただける方や教育活動サポーター、講師等の人材確保にも引き続き努めなければならない。 ②竹富町子ども・子育て支援事業計画では、放課後の子どもの居場所づくりに対する方針について、放課後子ども教室の取り組みを充実することで、放課後児童クラブ(放課後児童健全育成事業)を補完するとしていることから、各地区で取り組むことができる体制を確保する必要がある。取り組みへの理解を深めるための周知方法も検討しなければならない。		
外部評価	本町においても核家族化など近年家庭環境が多様化し、授業終了後の子どもの居場所づくりの確保が継続課題として取り上げられてきている。本事業は放課後の子どもの安全、安心の居場所づくりを目的として、学習支援や体験活動等が行われ、子どもの心身共に健全な育成に寄与しているものと評価できる。事業も昨年度の4校4教室から6校7教室へと拡充しており、地域と学校、行政が一体となった事業展開がなされ、成果を上げていると判断できた。今後の課題でもある、各地区における取り組みへの更なる理解を広げるためには、各地区が求める在り方をリサーチし、事業のアナウンスを拡充し、児童の健全育成事業が推進されることを期待したい。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	生涯学習委託事業(社会教育学級)		担当課	社会文化課
事業費	令和2年度実績額	令和3年度実績額	令和4年度予算額	
	791 千円	71 千円	90 千円	
事業概要	町民の生涯にわたる学習の機会を充実するため、委託事業者が社会教育事業を開設し、運営に必要な経費の定額を支給する。			
(1)対象	町民(町内の社会教育関係団体)			
(2)目的	青年教室・婦人学級・家庭教育学級室・成人大学講座を各種団体へ委託し、生涯学習の機会を提供する。			
(3)事業内容	【令和3年度実施学級及び団体名】= 6教室 ■成人大学学級=1教室 ・小浜公民館(小浜島民具製作クラブ)			
(4)成果目標	- それぞれの講座及び教室終了後、地域のリーダーとして生涯学習の実践者になっていく。 - 地域において学習の成果をさらに広めていく。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 地域特性や人材を生かした計画を立案し、生涯学習の場として各年齢層が繋がりを持った活動が行え、地域の活性化も図られた。また、各教室の活動は地域の歴史や文化、伝統芸能等の習得・継承に大きく貢献できている。			
	【課題等】 事業実施(計画立案を含む申請～活動運営～実績報告)について、申請手続きの簡素化等を検討し、多くの団体が本事業を活用しやすいように周知を継続的に実施しなければならない。			
	A	令和3年度は新型コロナの影響により集団での集まりを控えたことにより申請が1団体しかなかったが、今年度は全体で8団体の申請があります。		
外部評価	将来の予測が困難な社会と言われている中、より良い人生を送る手立てとしての生涯学習は社会が求めている事業の一つである。特に急激な情報化や高齢化が進む中で、地域コミュニティにおいて互いに学び合い高め合う事が、これからの時代には必要不可欠である。本事業はこれを補完する事業として、より多くの町民に周知し事業への参加を呼びかける必要があると考える。特に、情報化デジタル社会においては、高齢者がデジタル化についていけない場面が今後多く見られると考えられ、本事業の伝統文化の継承に加えて今後の事業内容の工夫を促したい。コロナ禍で参加団体の減少が見受けられたが、感染対策を万全にしながらか多くの団体が手をあげ事業が広がることを期待したい。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	社会教育団体育成補助事業		担当課	社会文化課
事業費	令和2年度実績額	令和3年度実績額	令和4年度予算額	
	1,975 千円	2,733 千円	3,355 千円	
事業概要	各種団体活動の育成及び青少年の地域活動振興及び推進の育成補助			
(1)対象	各種社会教育団体(公民館、青年会、PTA、子ども会、婦人会等)			
(2)目的	各種団体における学習機会の提供と自主的な活動を支援し、豊かな人間性と団体の資質向上を図ると共に地区の活性化を図る。			
(3)事業内容	各種団体活動の育成及び青少年の地域活動振興及び推進の育成補助			
(4)成果目標	各種団体への活動支援を目的とした育成補助を行い、団体の資質向上と指導者の育成を図り、各種団体の活性化を図る。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 各種団体がコロナ禍により制限された活動も多数あったが、活動補助金として交付することにより、創意工夫した活動が展開され、地域貢献や人材育成へ活かされた。			
	【課題等】 各種団体の取組みについて、社会教育委員又は社会教育指導員が積極的な指導助言等を行い、活発な活動が実施できるよう環境づくりを含め継続的に支援する。			
A				
外部評価	事業形態が社会教育学級と類似していることから、事業の一本化が必要と考えたが、補助金等が別枠であることから、本事業の継続は必要と考える。今後も創意工夫した活動や学習が展開されると期待しているが、特に島嶼地域であるため情報格差が生じないように急速に進むデジタル化に対応した学習機会が参加団体で行われる事を望みたい。また、活動内容の充実を目指す上で、社会教育員や社会教育指導員のスキルアップを図るための研修への参加の検討も考えてほしい。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	文化財美化保全事業 (沖縄振興特別推進交付金)		担当課	社会文化課
事業費	R2年度実績額	R3年度実績額	R4年度予算額	
	2,838 千円	3,260 千円	3,260 千円	
事業概要	指定文化財の美化・保全			
(1) 対 象	竹富町内の国指定文化財、沖縄県指定文化財、竹富町指定文化財			
(2) 目 的	指定文化財の利活用を図るために美化・保全を行う。本町の有する多くの文化財美化保全を推進し、本町特有の歴史文化や景観を恒久的に維持し、歴史文化財を活用し、観光資源として活用し地域の文化財保護振興を図る。			
(3) 事業内容	文化財指定地において、雑草や雑木の除去作業等の美化・保全を行い、見学者及び観光客に利用しやすい環境を整備する。			
(4) 成果目標	地域の文化財愛護の意識高揚が期待されるとともに、指定文化財等が生涯学習の場として活用されることや、来訪する観光客の満足度が高まることを期待する。指定文化財16箇所、指定候補文化財7箇所の美化保全清掃を実施する。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 沖縄振興特別交付金事業により、町内各地に所在する文化財の美化保全事業として清掃を行った。 ○ 竹富島⇒小城盛、西棧橋、蔵元跡、新里村、ミーナ井戸、トゥンナ井戸 ○ 西表祖納⇒大竹祖納堂儀佐屋敷跡、慶来慶田城翁屋敷跡、大平井戸 ○ 鳩間⇒東井戸(アンヌカー)、鳩間中森 ○黒島⇒プズマリ ○ 波照間⇒下田原城跡、シムスケー、コート盛 ○ 新城⇒タカニク、ターヌホー道、クイヌパナ、クイヌパナ道			
	【課題等】 地域公民館との委託契約としているが、黒島のプズマリは高所作業であり、安全に作業ができるよう特殊機材を持っている民間事業者と契約を交わしている。			
外部評価	文化財の美化保全は、本町の歴史と文化を後世に伝える上で重要な事業で有り、本事業の持つ意義は大きい。指定文化財は経年劣化しており、保全を含め美化活動は必須で有り、地域の文化財愛護の意識高揚にも繋がる事業として、常に気を配り事業を推進してほしい。指定文化財は本町の観光スポットとしても活用できることから、他課との連携も図りながら事業の遅滞が起こらないように努めてほしい。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	伝統的建造物群保存地区の景観保全	担当課	社会文化課
事業費	R2年度実績額	R3年度実績額	R4年度予算額
	2,622 千円	21,691 千円	27,251 千円
事業概要	伝統的建造物群保存地区における修理や修景及び現状変更行為に対する許可や指導等		
(1) 対 象	竹富町竹富島伝統的建造物群保存地区		
(2) 目 的	重要伝統的建造物群保存地区(昭和62年4月28日)の選定を受けた竹富島の集落景観、その価値を維持するために必要な事業を行う。		
(3) 事業内容	竹富島の集落景観を構成する建造物等のうち、歴史的な景観価値を有する保存物件の保存修理工事の補助や、修景が必要な物件の修景工事を補助することによって、集落景観の保全を図る。		
(4) 成果目標	老朽化が進む保存物件の修理を進めるとともに、現状変更行為に対して適宜指導を行い、景観保全を図る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ①竹富町重要伝統的建造物群保存地区・保存対策費補助事業として、屋根赤瓦葺き板壁張りの保存物件4件(トーラ1件・フーヤ3件)の修景に係る補助金交付を行った。 ②年度内に2回の審議会の開催を行うことができた。 ③台風の影響や経年劣化による保存物件の瓦ズレ等の修理の申請があった。		
A	【課題等】 ①保存修理の必要な保存物件が多数残されているが、所有者本人の負担も大きい事が支障となっている。 ②台風や大雨などにより保存物件に被害があった場合でも国庫補助金申請から工事着工まで約2年かかる。2年の間、被害にあった物件を放置しておくことは被害の拡大に繋がり、保存物件の消失にも繋がりがかねないため、迅速な修理措置が必要である。国庫補助の補助金交付までの繋ぎとして、町独自の補助の仕組み等を検討する必要がある。		
外部評価	本事業の目的である、重要伝統的建造物群保存地区の歴史的景観価値を維持する上での事業が継続遂行されている事は、望ましい事と考える。歴史的景観の保全維持については、地域住民とのコンセンサスが重要不可欠であり、行政としての役割としてその意義についての啓蒙を広げ継続して行くことを望みたい。課題である、国庫補助金申請から工事着工までの期間における、町独自の補助の仕組み等の検討は喫緊の課題であり、予算の確保について他部局との折衝で確保にあたって欲しい。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	史跡等活用整備事業	担当課	社会文化課
事業費	R2年度実績額	R3年度実績額	R4年度予算額
	16,035 千円	41,313 千円	39,797 千円
事業概要	史跡の調査及び修理工事と説明板設置		
(1) 対 象	町内史跡や国指定史跡の調査及び修理、説明板設置		
(2) 目 的	町内に多く残る史跡は、指定の有無に関わらず地域の成り立ちや文化を伝える貴重な地域遺産である。史跡の調査や修理を行い説明板を設置することで、後世へ継承する。		
(3) 事業内容	毀損した史跡の修理や、町史跡の調査等を行う。		
(4) 成果目標	貴重な史跡が滅失しないよう適時対応するとともに、測量等で事前に記録を残すことで不測の事態にも対応可能な資料作成する。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ①国指定史跡先島諸島火番盛小城盛レーザー測量(竹富島) ②国指定史跡先島諸島火番盛タカニク学習説明板設置(新城島) ③ユンドレースク遺跡測量業務(小浜島)		
	【課題等】 ①火番盛は各島々に点在しており、計画的に全火番盛の記録を残す必要がある。国庫補助を活用し、R9年までに全火番盛のレーザー測量・説明板設置を終えるよう事業を進めていく。 町内の火番盛は、大岳を除いて石積みで築造されており、その多くに崩落の危険がある。レーザー測量後、石積みの工事を予定しているが、元通りに石を積む技術を持つ業者がいらないという大きな課題がある。町民の中でも、石を積む技術を持っている方々は80歳を超えており、工事を通しての技術伝承は急務である。 ③ユンドレースク遺跡は測量調査を行った事が無く、範囲が不明であることから調査を行った。手付かずの原風景が残る地域であることから、歴史的価値を損なわない範囲で地域の文化学習等活用を進めていきたい。		
外部評価	本町における往時の渡来の歴史を残す上でも、火番盛は重要な遺跡であることから復元し後世に繋ぐことが大事だと考える。課題である石積みの技術の継承は早急に必要で有り、その解決策を推進して欲しい。また、町内に残る未指定の遺跡等も、失われる前に調査し記録保存が必要なため、引き続き本事業を継続発展して欲しい。		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	重要文化財旧与那国家住宅附と一ら修理工事	担当課	社会文化課
事業費	R2年度実績額	R3年度実績額	R4年度予算額
	16,598 千円	19,760 千円	0 千円
事業概要	旧与那国家住宅附と一ら・浴室及びボイラー室保存修理工事		
(1) 対 象	旧与那国家住宅附と一ら・浴室及びボイラー室		
(2) 目 的	国の重要文化財建造物である旧与那国家住宅の附と一らの浴室天井が崩落したことから、修理工事を行う。		
(3) 事業内容	国庫補助を用い、文化庁の指導を受けながら2年計画で修理を行う。		
(4) 成果目標	修理を完了する。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 国指定重要文化財建造物であることから、文化庁の指導のもと、文化庁が許可をした修理指導員に監理を依頼し、と一らの修理を行った。 床板やキッチンを取り外し、竈の痕跡や煤の跡などを確認した建設当初のと一らの姿を確認した。島内に残ると一らとの比較も行い、工事方法等について詳細な修理報告書を作成した。 修理完了に伴い、R4年度からは指定管理者を置き、日常管理と活用を進めていく。		
	【課題等】 国庫補助により、2年間かけて事業を行った。 重要文化財建造物の工事は、時間をかけてしっかりと伝統工法に則って修理を行う。半年以上かけて行った土づくりや屋根のユツツル編み等の工程では地域の協力を受け、小中学生の見学や体験学習を行い、地域に残る伝統技術に触れる機会を持つことができた。 消耗品に近い屋根瓦は古材が少なく、次回からの修理では新しい瓦を使わざるを得ない状況にある。現在の瓦とは規格・製法も異なることから、瓦の入手方法についての検討が必要な状況である。また、重要文化財修理は伝統的な工法を後世に残す一役を担っていることから、定期的な修繕を含め多くの人が関わる仕組みが必要である。		
外部評価	修理工事が完遂し、事業の当初目標が達成でき大いに評価できる。特に、地域や小中学生との関わりを持ち、当文化財の重要性をアピールできた事は、今後の文化財保護の広がりに寄与できた事と思う。今後は指定管理者と連携し、日常管理を続け修繕等が出てきた場合には迅速に対応してほしい。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	竹富町文化振興・観光交流拠点整備事業	担当課	社会文化課
事業費	R2年度実績額	R3年度実績額	R4年度予算額
	11,998 千円	16,720 千円	82,645 千円
事業概要	町立博物館整備に向けての基本計画を策定する。		
(1) 対 象	竹富町内の文化財等		
(2) 目 的	町の歴史・文化・自然を総合的に学ぶ文化振興・観光交流拠点となる施設の早急な整備が求められていることから、整備に向けての基本計画を策定する。		
(3) 事業内容	R2年度策定の基本構想を基に、町が必要とし且つ求められている博物館機能を持つ複合施設の整備を目指し、基本計画を策定する。		
(4) 成果目標	基本計画を策定する。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 基本構想を基に、複合施設として整備される拠点施設とサテライト施設の在り方について、全4回の基本計画策定委員会の中で、拠点施設整備の指針を検討・整理して計画を策定し、町長へ提言を行った。 提言では、記憶・記録の収集、実施計画の検討、開館準備室および専門職員の適正な配置等に取り組むほか、複合施設として適性な規模と内容となるよう庁舎全体で検討することが盛り込まれている。		
	【課題等】 複合施設として整備される為、町長部局の全体整備計画が明らかになってから、規模・管理体制を検討する必要がある。 また、関係各課との連携が不可欠であることから、より密に連携を取りながら計画を策定していく必要がある。 施設としての整備に関わらず、町内の記憶・記録の収集と保全、文化財のトリアージは優先して早急に取り掛からなければならないという意識を策定委員会の中で共有し、町へ提言している。 また、町内に関する研究資料を所蔵している方々の中には、自身が高齢になり資料の処分をしたいが、博物館等の保管施設が無い為、貴重な資料や文化財を別の市町村博物館へ寄贈したという情報が数件寄せられている。町内に関連する資料の散逸を防ぐ方を別途検討する必要がある。		
外部評価	ヒアリングにより、全体整備計画がまだ整っていない事から、評価しづらい面がある。今後とも町長部局との連携を密にし、計画策定に従事してほしい。また、文化財の収集、記録、保全等は整備計画以前にもできる事業で有り、文化財が経年により失われていく前に早急に対応する必要があり、今後の課題として事業を進めてほしい。		
	B		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	埋蔵文化財の保護		担当課	社会文化課
事業費	R2年度実績額	R3年度実績額	R4年度予算額	
	— 千円	18,370 千円	7,777 千円	
事業概要	埋蔵文化財の調査及び諸開発に伴う事前調整や指導			
(1) 対 象	周知の埋蔵文化財及び不時発見の埋蔵文化財			
(2) 目 的	地中に刻み込まれた文化財である埋蔵文化財は、諸開発によって失われるおそれが高いため、分布状況や保存状況等の情報を把握しておくために必要な調査等を行う。			
(3) 事業内容	諸開発事業に伴う埋蔵文化財の有無確認調査や、必要な措置がある場合はその指導を行ったり、記録保存の必要な埋蔵文化財や重要な遺跡については、発掘調査を行うことによってその埋蔵文化財の保護を図る。			
(4) 成果目標	埋蔵文化財の保護が後手にまわらないよう、適時対応するとともに、これまでの調査成果資料の整理を進める。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 南風田原遺跡試掘調査(小浜島)			
	【課題等】 農業基盤整備事業に伴う試掘調査を行い、新しい遺跡の発見もあった。今後は、担当課と調整のうえ、発掘範囲を絞り込み、事業に遅れが出ないように進める。現在、考古学を専攻した専門員がいないことから、国庫補助での試掘調査等が難しい。今後は専門員としての条件を満たす人材の確保等が急がれる。			
外部評価	A			
	各島々で開発が進む中、開発後の遺跡等の調査は困難な為、本事業は大きな意義があり、継続して事業を進めるべきである。特に、町長部局の担当課との連携が必要なため、開発予定地等の把握に努め、調査が後手に回らないように努めてほしい。また、調査等に必要な専門員が必須であり今後とも人材の確保に努めてほしい。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	町史編集事業	担当課	社会文化課
事業費	令和2年度実績額	令和3年度実績額	令和4年度予算額
	1,648 千円	8,207 千円	11,395 千円
事業概要	『竹富町史 第7巻 波照間島』増刷、『竹富町史 第8巻 西表島』(上巻)版下制作、『竹富町史だより』(第48号) (第49号) 発刊		
(1) 対象	竹富町民、一般人、研究者		
(2) 目的	竹富町の先人たちが築いてきた特色ある町の歴史や自然を島々の個性を際立たせて位置付けながら、編集・発刊を行うこと。それにより町民一人ひとりのみならず、竹富町の先人の顔を思い浮かべることができる親しみやすいものとする。これらが島のかけがえのない宝、共有財産として後世に引き継ぎ、豊かな町(島)づくり、人づくりに資することを目的とする。		
(3) 事業内容	竹富町史刊行物の編集・発刊		
(4) 成果目標	地域を知るための基礎資料として親しまれ、かつ学術的にも信頼される町史編集事業		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明 【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ①『竹富町史 第7巻 波照間島』(以下、『波照間島』)の品切れに伴い〔初版第2刷〕を刊行した。島じま編シリーズは、竹富町の各島約800頁にまとめた大著であるが、『波照間島』はその5冊目である。各巻とも町内をはじめ、郷友会からの反響が大きく、とりわけ『波照間島』は南ぬ島石垣空港の売店での売り上げが特筆できる。観光客がお土産に買って帰ったとのことである。地域に親しまれ、学術的にも信頼される編集を心掛けることにより、島づくりに寄与し、広く活用できるものと思われる。 ② 令和4年度に刊行を計画している『竹富町史 第8巻 西表島』(上巻)の版下制作を終えた。今後は、諸資料との整合性をとりながら微調整を重ねて精度を高め、今年度中に刊行する予定である。 ③『竹富町史だより』は町民を対象とした機関誌である。内容は今後『西表島編』を編むにあたって参考となるばかりでなく、西表島を知るための手立てとなるものである。近年、西表島の炭坑についての問い合わせが多いが、(第49号)はこれまであまり知られていなかった西表島の波の上炭坑にスポットを当てた。町内全戸に配布し多くの方々の手に渡ると同時に、広く町史編集事業をアピールできた。 【課題等】 基礎資料を整えると同時に、「島じま編」の編集・発刊を進めていくにあたって、スケジュール管理が大きな課題である。		
	A		
外部評価	ヒアリングから発刊のスケジュールに遅れについての説明を受けたが、歴史的な資料として後世に残すためにも慎重な精査は必要であり、資料の記載漏れまた誤植等が無いように編纂に努めてほしい。島々編は町民だけではなく、多くの人に読んでほしい資料の為此の本の販売等のアナウンスも必要かと思う。町史だよりに関しては好評の事から、今後も町民にアピールできる便りの発効を期待する。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	学校等施設の維持管理	担当課	総務課
事業費	R2年度実績額	R3年度実績額	R4年度予算額
	23,652 千円	113,169 千円	27,909 千円
事業概要	学校施設等の修理・修繕及び維持管理上必要な施設の整備		
(1)対象	竹富町立幼稚園・小中学校(交流センター)・共同調理場及び教員宿舎		
(2)目的	学校施設等の中には、経年劣化や自然災害等によって園児及び児童生徒の安全・安心が失われるおそれがあるため、修理や修繕等の整備を行い、学校環境の安全・安心を図る。		
(3)事業内容	学校施設等の現況を調査し、破損箇所や腐食した箇所を修理・修繕し、安全・安心な学校環境の維持・管理。		
(4)成果目標	年次的に学校施設等の修理・修繕等を行い、快適で安全・安心な学校環境の整備を進める。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明 【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 令和3年度においては、幼稚園・小中学校(交流センター)・共同調理場・教員宿舎等、緊急的なものを優先し修理・修繕等を行ってきた。 ② R2年度より、沖縄県学校施設環境改善事業交付金(沖縄振興公共投資交付金)における、屋外教育環境施設整備事業にて西表小学校グラウンド整備工事を令和3年度に繰り越しし整備を行った。 ③ R3年度において竹富町学校教育施設長寿命化計画を策定した。		
	A	【課題等】 ① 多くの修理・修繕箇所の要望があり、予算を確保しながら学校環境の整備を図るとともに、本町公立学校施設整備事業長期計画を作成し、安心・安全・快適な学校施設など教育環境の充実に努める必要がある。 ② 公共施設等管理計画に基づき、建物の長寿命化にむけた個別施設計画の策定に必要な情報の整理が急がれる。	
外部評価	本町は風水害や塩害等で施設の経年劣化が著しい傾向にあり、各施設の安心・安全を確保するためにも施設の修理・修繕は決め細く行う必要がある。R3年度に施設長寿命化計画が作成された事は評価できるが、加えて、施設の年次的な建て替えも必要であり、国、県との連携を図りながら今後の建て替えの見通しを立て計画の作成に当たって欲しい。		
	A		

令和3年度 教育事務点検総合評価

■教育委員会の機能充実

総合評価	[A]	・コロナ禍において社会状況は大きく変化し、これまでに経験した事がない変化が起きている。その中、「教育」に関してはより重要性がクローズアップされており、本町の教育をリードす教育委員会の責務は重大である。令和3年度においては、学校教育においては、幼児、児童、生徒の学びの成長を促す事業が展開され、「生きる力」を身につける教育活動が多く為されたことは大きな評価である。また、社会教育においても継続した事業を含め、地域住民の要望に即した事業がなされており、生涯教育の発展に寄与していると評価できる。 ・国においては次期教育振興基本計画の策定が2023年から始まり、2040年以降の社会の変化を想定した学校教育、生涯教育の骨子の策定が進んでいくことになる。本町においても、次代を見据えた教育の展望を考え、住民の付託に応える教育委員会としての活動を期待したい。
1 教育委員会の概要	[A]	・教育委員会制度の意義が引き続き実行されており、独立性と教育長を中心とした本町の実情を知る教育委員を含めた合議制の意思決定（レインマンコントロール）で教育委員会が運営されている。 ・教育主要施策に関しては、昨年度の評価が活かされており、主要施策体系の大幅な改正が行われ県の教育施策との整合性が図られている。また、町独自の学力向上施策「ばいぬ島っ子プラン」がより明確に示され充実した施策が作られている。
2 教育委員会の概要と会議の状況	[B]	・奇数月の定例会、臨時会が漏れなく開催されており、教育委員会としての意見の集約が成されている。今後も事務点検としての教育委員会の役割を發揮できるような活気ある会議を期待したい。 ・教育委員会制度の改革により総合教育会議の開催が望まれているが、近年一度も開催されていないことは、町長部局と教育委員会の連携がなされていないと判断されることで改善が必要である。首長との連絡・調整は喫緊の場合は特に必要であり、今後の開催について検討して欲しい。
3 教育委員会の情報収集状況	[A]	・コロナ禍で制限を受ける中、施設等の課題を教育委員会が把握するためにも学校等支援訪問が為された事は成果として評価できる。安心・安全な施設の点検等は管理者としての義務でもあり今後も定期的に実施して欲しい。 ・オンラインの研修も含め教育研修への参加が数多くあり、教育委員会全体の資質向上が為されていると評価できる。また、現在の教育状況を学ぶためにも、教育専門家を招聘しての委員会全体を網羅した研修会の実現も引き続き課題として考えて欲しい。
4 教育委員会事務局の組織及び職員配置	[A]	・現在の3課体制は教育委員会の組織としてスムーズに運営されており、現体制を継続していくことが望まれるが、DXに対応した体制も町長部局と連携しながら新たな体制の構築も考えて欲しい。 ・人員に関して、特に文化財等の専門的分野での人材確保に引き続き努力するとともに、休職等の欠員が出た場合には迅速な補充に努めて欲しい。
5 教育行政	[A]	・教育委員会として学校への支援・指導が引き続き充実にしており、教育行政が漏れなく展開されている。 ・教育予算に関しては、歳入・歳出共に問題なく執行されているが、今後の課題としては施設等の修理や建て替え等の計画の為の予算の確保や、子供達が持続可能な社会の創り手になれる人材育成及び社会教育全般において住民の付託に答える教育行政に努めて欲しい。

■幼稚園・学校教育の充実

総合評価	[A]	離島の3幼稚園においては幼小連携が図られ、子どもたちの生活や学びの基盤が保障され幼児期の教育と児童期の教育が円滑に接続され組織的に支えられている。幼稚園が設置されていない離島においても、行事等日常的な合同活動の充実を図り、幼児が年長者に対する憧れや成長への期待を持ったり、児童が自己表現や成長の喜びを体験したりするなど、互いに有意義な体験を得られる取り組みに期待したい。 小中学校においては、離島の特性を生かした海洋教育が充実し主体的な学び、郷土愛、SDGsに対する関心・意欲・態度が醸成されている。今後、GIGAスクールによる学びの充実を図り、子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育の実現に努めてほしい。 また、地域に貢献できる人材育成を意識した島嶼型教育行政の推進に期待したい。
------	-------	---

事務事業点検評価シート（新型コロナウイルスの影響で実施出来なかった主な事業）

竹富町教育委員会

事業名	ホームステイ事業	担当課	教育課
事業費	R2年度実績額	R3年度実績額	R4年度予算額
	0 千円	0 千円	0 千円
事業概要	町内に在学する中学2年・3年生を対象に、希望者を募り海外（米国ワシントン州シアトル）へ約3週間ホームステイを行い、異文化体験や英語の語学学習を行わせる。		
(1) 対 象	町内在学の中学2年・3年生を対象		
(2) 目 的	将来の日本を担う青少年が、異文化体験を肌で感じ外国語の学習と実践を通じて、真の世界平和樹立に貢献できる人材育成と国際感覚を身に付けさせることを理念に海外研修を実施する。		
(3) 事業内容	沖縄タイムス海外ホームステイ事業の中に組み込み、町内中学生を対象に募集を行い、面接試験を課した後、3名を約3週間の日程で米国ワシントン州シアトルに派遣し、現地の受け入れファミリーの中でホームステイを行う。		
(4) 成果目標	研修終了後に提出する報告書や報告会において、異文化理解や語学（英語）の学習が身についているか。さらに、諸調査等で英語の平均正答率が伸びているかを判断する。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 新型コロナウイルス感染拡大により、沖縄タイムス海外ホームステイ事業の中止に伴い、本事業も中止となった。 代替としてALTを3名学校へ派遣し特別プログラムを実施した。		
	【課題等】 ①現地へ派遣ができない場合の代替 ②派遣人数増員（5名）のための予算確保		
外部評価			

事務事業点検評価シート（新型コロナウイルスの影響で実施出来なかった主な事業）

竹富町教育委員会

事業名	英語サマースクール	担当課	教育課
事業費	R2年度実績額	R3年度実績額	R4年度予算額
	0 千円	0 千円	220 千円
事業概要	外国語に興味のある中学2・3年生を参加対象とし、英語学習の活動を中心としたプログラムを編成・実施。1泊2日の間は基本、オールイングリッシュで様々な活動に参加し、ALTや各校の英語教諭の支援の下、英語に対する興味・関心やスキルの向上を図る。		
(1) 対 象	外国語に興味のある竹富町内中学2・3年生		
(2) 目 的	外国語に興味のある町内各中学校2・3年生が一堂に会し、積極的に英語で会話をし生活することで、英語に対する興味関心を高めるとともに英語によるコミュニケーション能力を高める。		
(3) 事業内容	プログラム(オールイングリッシュで活動) ・三色綱引き ・自己紹介交流活動 ・ピニャータ作り ・星講座 ・歌 ・クイズ ショー ・星空観察 ・班会議、班長会議 ・島文化交流 ・ピニャータ鑑賞 ・ピ ニャータ割り		
(4) 成果目標	①島外の同級生と交流を持たせることによって、コミュニケーション能力を育成する。 ②言語活動を通して、英語に興味を持たせ、使うことの楽しさを味わわせる。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止		
	【課題等】 ①予算化したが事業全体の見直しを検討する必要がある。		
外部評価			

事務事業点検評価シート（新型コロナウイルスの影響で実施出来なかった主な事業）

竹富町教育委員会

事業名	小学校集団宿泊学習	担当課	教育課
事業費	R2年度実績額	R3年度実績額	R4年度予算額
	0 千円	0 千円	422 千円
事業概要	21世紀を担う竹富町の児童が、自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境で、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、交流を通してよりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を行う。		
(1) 対 象	竹富町内小学校5年生		
(2) 目 的	① 恵まれた自然の中での集団宿泊活動を通して、見聞を広め自然に親しむ。 ② 竹富町内の小学5年生が寝食を共にすることによって、友人を増やし友情を深め合う。 ③ お互いの島の様子や竹富町の様子を知り、郷土に対する理解を深める。		
(3) 事業内容	① 集会活動（オリエンテーション、レクリエーション、班会議、平和学習） ② 体験活動（カヌー体験、野生動物保護センター見学、星空観察）		
(4) 成果目標	① 島外の同級生と交流を図ることにより、コミュニケーション能力を育成する。 ② 体験活動を通して、道徳観・正義感を育成するとともに、生きる力を身につけさせる。 ③ 平和学習を通して、命の尊さについて理解を深める。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止。		
	【課題等】 ① 感染対策を講じた上での実施を検討。 ② 予備日も含めた日程の調整。		
外部評価			

事務事業点検評価シート（新型コロナウイルスの影響で実施出来なかった主な事業）

竹富町教育委員会

事業名	球技大会	担当課	社会文化課
事業費	R2年度実績額	R3年度予算額	R4年度予算額
	0 千円	0 千円	850 千円
事業概要	お年寄りから青年層まで、気軽に参加できる競技種目を設けることにより、スポーツを通して、町民の健康増進と交流の機会を創出する。		
(1)対象	・竹富町に住民登録を有する者 ・アマチュア競技者		
(2)目的	町民が各種のスポーツ行事に参加できる機会を提供し、スポーツに親しみ健康と体力の増進を図り、明るく生き生きとした生活の向上と地域活性化を目指し開催する。		
(3)事業内容	・ソフトボール ・ソフトバレーボール ・グラウンドゴルフ		
(4)成果目標	大原中学校を主会場に三会場で実施し、町内の各公民館から選手及び、応援団が参加することにより、スポーツを通して町民相互の親睦を深める機会とする。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 R3年度は、コロナ禍により中止。		
	【課題等】		
外部評価			

事務事業点検評価シート（新型コロナウイルスの影響で実施出来なかった主な事業）

竹富町教育委員会

事業名	やまねこマラソン大会	担当課	社会文化課
事業費	R2年度実績額	R3年度予算額	R4年度予算額
	0 千円	0 千円	2,500 千円
事業概要	西表島特有の大自然を活かしたマラソンコースを設定し、町民をはじめ全国からのジョガーと沿道の地域住民ボランティアの応援・声援で大会を盛り上げる。また、レース後は「ふれあいパーティー」を企画し、参加者、大会関係者スタッフ、住民との交流の機会を創出する。		
(1)対象	・ 3km(八重山郡内の中学校男女) ・ 10km(16歳以上男女) ・ 23km(16歳以上男女)		
(2)目的	日頃から健康ジョギングで体力づくりに励んでいるスポーツ愛好者を迎え、「西表島の大自然とのふれあい」を提唱し、さわやかな汗で健康と体力増進及び青少年の健全育成を図るとともに、スポーツイベントによって交流の輪を広げ、地域の活性化を図り本町のさらなる発展を目指す。		
(3)事業内容	・ 3km(中学校男女) ・ 10km(16歳以上男女) ・ 23km(16歳以上男女)		
(4)成果目標	大会開催も第27回を数え、全国的にも知名度の高い大会である。出場選手に満足してもらえるよう、コースの安全性を含め職員、地域ボランティアを動員して大会の運営にあたる。また、大会に欠かせない、ふれあいパーティーの企画も各種団体との連携により、地域活性化が図られる。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 R3年度は、コロナ禍により中止。		
	【課題等】		
外部評価			

事務事業点検評価シート（新型コロナウイルスの影響で実施出来なかった主な事業）

竹富町教育委員会

事業名	国土交通大臣杯 全国離島交流中学生野球大会	担当課	社会文化課
事業費	R2年度実績額	R3年度予算額	R4年度予算額
	0 千円	0 千円	2,000 千円
事業概要	島の未来を担う少年少女たちが野球を通して幅広い”交流”をはかり、友情を育むとともに夢と希望と勇気をもつことの大切さの実感、郷土を思う誇りと心を醸成し、島の活性化、人づくりに資する。		
(1)対象	竹富町立中学校(代表選抜)		
(2)目的	地理的環境から島外との交流機会の少ない全国の離島中学生が一堂に会し、野球を通じて「島」と「島」の交流を図ることにより、新たな人間形成や健全な青少年の育成を促進することで、将来を通じた離島地域の振興に寄与することを目的とする。		
(3)事業内容	野球大会・交流試合・さよならパーティー		
(4)成果目標	離島甲子園に出場できることに感謝の気持ちを忘れず、大好きな野球ができる喜びを感じながら、元気よく伸び伸びプレーし、離島中学生との交流の輪を広げる。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 R3年度は、コロナ禍により中止。		
	【課題等】		
外部評価			